

めざす子ども像

## ふるさとに夢と誇りを持ち、 自分の意見をしっかりと語れる子ども

取組目標

歴史・人・自然・もの・未来につなげ守ろう SDGs！  
ふるさとに夢と誇りを持とう・故郷の良さを発見！ふるさとの文化をつないでいこう！  
地域ぐるみで特産品を作ろう！ようこそ先輩！地域の人に学ぶ職業観！

### 【今年度の取組紹介】

今年度も、昨年度と同様に、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、多くの活動が見合わせとなりましたが、地域の方々に感染症予防対策を考慮いただきながら、今できる限りの活動を実施することができました。特に、「アルミ缶回収活動」については、26年目を迎え、地域の方々の手厚い協力のお陰で、例年と同様に活動を続けることができました。この活動は、当時の中学校生徒会の呼びかけで始まりましたが、今では月ヶ瀬地区社会福祉協議会、ボランティア愛歩21、地域住民、学校が一つになり継続して実施しています。今年は、7台の福祉機器を寄贈することができ、これまでに寄贈した福祉機器は144台になりました。烏梅を使った紅花染めでは、愛称名とカードのイラストを募集しリニューアルしました。その他にも、毎年恒例となっている梅の実採りや梅干し作り、月ヶ瀬クリーン部隊の協力による環境美化活動、伝統芸能の伝承、梅寿会との交流など、いずれも子どもたちにとってはふるさと月ヶ瀬の良さを知る貴重な体験となりました。



㊦ 26年目を迎えた「アルミ缶回収活動」



㊦ こ・小・中で行った梅の実採り

### 【今年度のまとめ】

今年度も、新型コロナウイルス感染症の影響で、校外での活動、地域と合同で行われる体育祭や文化祭が中止となりました。それに伴い、ふるさとの良さを発信する機会や地域の方々との交流の場も少なくなりました。しかし、この状況下でも、26年目となったアルミ缶回収活動では、多くの方々の協力のもと、これまでと同様の活動が行われ、福祉センターや特別養護老人ホームなどに車いす等の福祉機器を贈呈することができました。

また、今年度は本協議会の活動に奈良教育大学より1名の大学生が参加し、子どもたちも親しみをもって交流することができました。来年度は、昨年度に整理した人材バンクの活用等、これまでの取組をさらに発展し、連携強化に努めていきたいと思っております。

### 【来年度に向けて】

少子高齢化の進むへき地ではありますが、月ヶ瀬中学校区では長年地域の子どもたちを地域で支え、支援する体制が整っています。こども園・小中学校の子どもたちを地域ぐるみで育てる環境を今後も継続して構築していきたいと考えます。また、伝統となったアルミ缶回収活動をはじめ、広報活動にも重点を置き、若い世代の取り込みを積極的に進めていきたいと考えています。

めざす子ども像

## ふるさとに夢と誇りを持ち、 自分の意見をしっかりと語れる子ども

取組目標

「ふるさとに夢と誇りを持とう」  
ふるさとの支援を受けながら、郷土愛を育て、  
ふるさとを守り、未来につないでいく生徒の育成

### 【今年度の取組紹介】

今年度も新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、恒例となっていたいくつかの体験学習の実施が見合わせとなりましたが、昨年度実施できなかった月ヶ瀬地区内の各地区を巡り歴史や伝統を学ぶ「ふるさとWalk」は、現地を訪問せず、事前に地区の方へのインタビューの様子をビデオで撮影し、それを生徒全員が見る形態で実施しました。生徒にとっては、ふるさとの良さを再発見できる活動となりました。また、「地域花いっぱい運動」や「アルミ缶回収活動」は、地域の方々の多大な協力を得て、今年も例年通りの活動が実施できました。昨年度から始まった公民館学習の「スタディサポートサンデー」では、奈良教育大学生1名がスタッフとして参加してくれました。定期的なチラシ配布等の広報活動により、活動も定着してきました。

今年も地域の方々の協力のお陰で、子どもたちは自分たちが暮らす地域をより深く知ると共に、人・こと・ものとのつながりの大切さを学ぶことができました。



事前のビデオ撮影による  
「ふるさとウォーク」

「地域花いっぱい運動」



### 【今年度のまとめ】

今年度も、感染症予防のため、特に校外へ出ていく活動は中止となりましたが、昨年度実施できなかった事業もいくつか復活し、「ふるさとを発見」→「ふるさとの良さを発信」→「ふるさとの産業や文化の継承」へと思いを繋げる活動ができました。また、ふるさとの抱える課題にも目を向けることができました。本校の伝統でもある「アルミ缶回収活動」は、今年で26年目になりました。生徒数も徐々に減少しており、地域の協力無しには継続が難しい中で、地域ぐるみの活動として、福祉面や環境面など多方面から高い評価をいただいております。地域の支えあつての活動に感謝しながら、これからも各事業を深化させていきたいと思っております。

### 【来年度に向けて】

「スタディサポートサンデー」では、より多くの子どもが安心して利用できるよう、さらに広報活動にも力を入れ、参加人数を増やしていきたいと考えています。また、今年度、事前のビデオ撮影で実施した「ふるさとWalk」のように、コロナ禍でもできることを追求しながら各事業を進めていきたいと思っております。月ヶ瀬は産業も多く、人材にも恵まれた地域です。キャリア教育をより豊かで充実した学習にするために、広く活躍する人材を生かした支援体制の構築にも努めたいと思っております。

めざす子ども像

## ふるさとに夢と誇りをもち、 自分の意見をしっかりと語れる子ども

取組目標

月ヶ瀬の良さを体感するために、特産品・この地域にしかない物作りの体験学習や地域に伝わる伝統芸能継承者の方から直に教えていただくことを通して、ふるさと月ヶ瀬をもっと好きになり、将来への夢に繋げる。

### 【今年度の取組紹介】

月ヶ瀬小学校で取り組んでいる地域学習は、地域の方々に支えられ成り立っています。今年度も新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、いくつかの地域学習が中止となりましたが、昨年度実施できなかった梅寿会との交流会やお話の会は、開催時期や内容について何度も検討を重ね、感染症対策にも十分留意しながら、全学年で開催することができました。また、恒例となっている梅干し作りや伝統芸能の伝承等も、昨年度の経験を生かしながら実施することができました。特に、伝統芸能の伝承では、今年度もマスクをつけてのせりふ回しや接触を避けた演技構成等、できる限りの感染予防を指導者に考慮いただき、無事に発表を終えることができました。

月ヶ瀬小学校の児童は、自分たちの暮らす地域の生活文化や習慣、産業、伝統文化に至るまで、幅広く月ヶ瀬を学んでいます。また、発達年齢や教科・領域などの学習との関連も考慮しつつ、身近な月ヶ瀬を深く知ることで、児童には故郷を思う気持ちが育っています。小学校での地域学習のこうした学びは、中学校での学びにつながり、さらに発展、発信へと深化していきます。これからも自分たちの地域を見つめ、深めていく取組を続けていきたいと思えます。



☞ 伝統芸能の伝承  
狂言「清水」

☞ 梅寿会との交流会



### 【今年度のまとめ】

小学校では基礎基本の定着を図る学習活動を通して、しっかりとした礎を作ることが大切だと考えています。加えて、月ヶ瀬小学校では児童の発達段階に応じた地域学習の取組にも力を入れています。

児童は地域学習を通して、月ヶ瀬を深く知るだけでなく、人とつながることの大切さを知ったり、地域の方々の温かさに触れたり、コロナ禍の中であってもご支援いただいた方々への感謝の気持ちを持つことができました。ふるさと月ヶ瀬を誇りに思い、月ヶ瀬の伝統芸能や文化の伝承者として次の世代を担ってくれる人材の育成を目指し、これからも取組を続けていきたいと思えます。

### 【来年度に向けて】

地域の少子高齢化が進み、伝統芸能や生活文化の伝承が危ぶまれています。月ヶ瀬も例外ではありません。伝統芸能や生活文化を伝承する人材の確保が難しくなりつつあり、地域学習をどのように続けていくかについて、地域も学校も一緒に考えていく必要が出てきています。たいへん難しい課題ですが、児童にそれらを伝承していこうとする自覚や意欲が育つように、これからも取組を深化させていきたいと思えます。



めざす子ども像

**ふるさとに夢と誇りを持ち、****自分の意見をしっかりと語れる子ども**

取組目標

**地域とのつながりを大切にして地域に親しみ、  
地域の伝統、産業に触れ興味関心を持つ****【今年度の取組紹介】**

今年度は、夏野菜の苗植え、田植えから始まりました。地域の方に野菜の植え方や稲の植え方を教わりました。陶芸体験ではお茶会に使う湯飲みと菓子皿作りで陶芸粘土の塊からこねて形を作っていました。

お茶会では、自分で作った湯飲みと皿で月ヶ瀬のお茶を頂きお菓子も食べました。手作り湯飲みと皿で頂くお茶とお菓子は美味しく嬉しそうでした。敬老の日近くになると、福祉施設に手作りプレゼントを届けました。



お話の会では、「だっこ」の方と、「108」の方2組に、大型絵本、大型紙芝居、エプロンシアターなど地域の方と楽しく触れ合うことが出来ました。

地域散歩では、龍王の滝を案内していただき、分かりやすく滝のお話を教えてもらい草笛も吹いて聞かせてもらい、子ども達は興味津々でした。最後は、しめ縄づくり、地域の方に藁を持ってきていただき一緒に作りました。

**【今年度のまとめ】**

野菜の苗植えなど、毎年行っている所以地域の方と親しくなり年長児は名前を覚え「前、教えてもらったことあった」など思い出していました。楽しみにしていたお茶摘みは、天候の加減で体験できず、染物体験も講師の方と予定が合わず、園内で1度行っただけでした。しかし、コロナ禍で中止になっていた福祉施設との交流は、今年度は園児がプレゼントを作り届けました。

陶芸体験、お茶会、お話の会、地域散歩、しめ縄づくりは、年齢に応じて楽しむことができました。

地域の方と様々な体験を通して、地域の方の温かさを感じ、親しむことで地域を知ることにつながりました。

**【来年度に向けて】**

コロナ禍でもできることを、模索しながら感染対策をとり、地域の方と子ども達が元気で活動を続けられるようにしたいと思います。今年度体験したことを来年度につなげ、目標に向けて地域とのつながりを大切に、事業内容の充実のため検討し進めていきたいと考えます。